

避難に対する基本的な考え方

避難のポイント

避難は自ら判断を

災害の危険が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。

- 具体的には
- 土砂災害の危険がある地域に住んでいる。
 - 河川の氾濫により、浸水の危険がある地域に住んでいる。
 - 子どもや高齢者など家族の中に避難に時間を要する方がいる。

気象情報や町の避難情報に注意し、自発的な避難を心掛けてください。

命を守る最低限の行動を

危険な状況のなかでの立退き避難はかえって危険です。危険が切迫している場合は、指定緊急避難場所への移動だけでなく、身の安全の確保を第一に考えます。

- 具体的には
- 夜間や急激な降雨で避難経路上の危険箇所がわかりにくい。
 - ひざ上まで浸水している。(50cm以上)
 - 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
 - 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

自宅や近隣建物の2階以上へ(土砂災害の場合は、斜面から離れた部屋など)緊急に一時避難し、救助を待つことも検討してください。

避難時の心得

●非常持出品は最小限に!

リュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。身軽に行動できるよう持出品は最小限にしましょう。



●自分の住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう!

特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身につけて避難しましょう。



●外出中の家族には連絡メモを残そう!

避難前にはガスの元栓やブレーカーを切り、外出中の家族に「どこどこへ避難する」といったような連絡メモを残しておくことで良いでしょう。



●集団で助け合おう!

単独での行動は避け、できるだけ近所の人たちと集団で指定された場所へ避難しましょう。緊急時は、家族、隣近所、地域みんなで助け合いましょう。



●緊急車両の通行を妨げないように

緊急車両の通行の妨げにならないよう、徒歩や車の乗り合わせで避難しましょう。



●災害用伝言板・SNSで連絡する

電話が通じなくなることを想定し、連絡手段を複数用意しましょう。熊本地震では、SNSは有効でした。



災害時特に配慮を要する方々への支援

●高齢者・病人

- ・おんぶ(または担架、リアカーなど)を利用して安全な場所まで避難する。
- ・複数の介助者で対応する。

●車いすを利用している方

- ・階段では2人以上が必要。
- ・上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- ・介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おんぶして避難する。



●目の不自由な方

- ・声をかけ、情報を伝える。
- ・誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩前をゆっくり歩く。

●耳の不自由な方

- ・話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- ・手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



避難所生活の心得

避難所でのマナーとルール

避難所の生活では、ほかの人の居住スペースに立ち入ったり、のぞいたり、大声を上げたり、決められた場所以外で喫煙するのはマナー違反です。ルールを守り、避難者もできる範囲で役割分担をして助け合いながら生活しましょう。また、避難所では、要配慮者への心配りも必要です。

①連絡先などの申告

避難所に到着したら、住所・氏名・連絡先を申告し、できるだけ隣近所の人や町内会ごとにまとめて過ごすようにします。帰宅困難者はその旨を申告します。



②役割分担

受付や炊き出しなど、割り当てられた係の仕事はしっかり行いましょう。お互いに協力し合って避難所を運営しなければならぬことも多くあります。



③体調管理・衛生管理

急激な環境変化で体調を崩さないように心掛けましょう。トイレの清掃やゴミ捨て当番などを決めて衛生管理をしましょう。



思いやりの心が大切



洪水時における避難のポイント

長靴は水が入って歩きにくく危険です。裸足やスリッパも禁物です。運動靴をはきましょう。



足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を杖でつきながら慎重に歩きましょう。



道路の冠水時は、側溝、水路、マンホール(フタがとれている可能性あり)、坂道(水深が浅くても流れが速い)、ため池などが危険です。



垂れ下がった電線には触れないようにしましょう。



橋を渡らないようにしましょう。



大雨時の田んぼの見回りはやめましょう。



洪水や冠水の中で歩ける水深は、ひざくらい(男性70cm、女性50cm程度)までが目安です。



いざという時、居場所を知らせるために、笛(ホイッスル)を持っておきましょう。



●車は冠水に弱い

水深30cmで、ほとんどの車は止まってしまいます。従って浸水や冠水の危険を感じたら、すみやかに車を高台などに移動させましょう。冠水のためエンジンが止まったり、エンジンの吸気系に水が入っているかもしれないので、道路の水が引いたからといってそのままエンジンをかけると、故障するおそれがあります。



コラム ～家財・家屋の浸水被害を軽減させるためには～

家財編

家財は浸水しないよう一時的に高い場所に上げておきましょう。例：通帳、パスポート、アルバムなど 畳→食卓の上 洋服→タンスの上

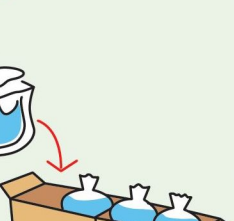


家屋編

簡易水防工法は、家庭にある物を使って家屋の浸水や流入を防ぐ方法です。玄関などの出入口のみならず、床下への浸水の防止にもなります。

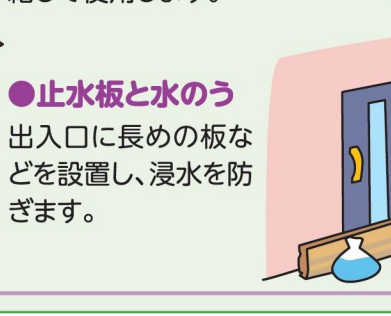
●ゴミ袋による簡易水のう

40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これを段ボール箱に入れ、連結して使用します。



●ポリタンクとレジャーシート

10リットルまたは20リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み、連結して使用します。



●プランターとレジャーシート

土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み使用します。



●止水板と水のう

出入口に長めの板などを設置し、浸水を防ぎます。



土砂災害時における避難のポイント

●がけ崩れのおそれがある場合

一般的に、がけ崩れの土砂は、地面が平らなところはがけの高さの2倍の距離までくるといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。



●屋外に避難する場合

避難の際には、他の土砂災害の危険があるところはできるだけ避けましょう。

●土石流のおそれがある場合

渓流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとても速いので、土石流を見たら、流れに直角方向に逃げましょう。



●やむを得ず屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。